

# うらが 今日 1

## 浦賀ドック計画のはじまり

郷土史家 山本詔一

ペリーの来航を境にして、浦賀は造船・修船（船を修理すること）の町へ歩み始めた。

日本で最初の西洋式軍艦・鳳凰丸を浦賀奉行所の役人たちの手で完成させたのが、安政2（1855）年のこと。この建造場所は東浦賀大ヶ谷蟬浦で、現在の東浦賀の大ヶ谷のバス停あたりである。

さらに安政6（1859）年の暮には、日米修好通商条約の批准のためにアメリカに渡る使節団の供奉艦として咸臨丸が選ばれたが、渡米前の点検で浦賀でドックに入っている。これが日本で最初のドックといわれている。咸臨丸がドックした場所は、浦賀小学校前を流れる長川の河口説と天保年間に干鰯市場を広げるために埋め立てた現在の住重・浦賀工場内の船台のところであった中堀説があ

り、結論がでていない。

中堀の周辺は、その後、幕府海軍が本格的に始動すると蒸気軍艦の石炭の補給場所となり、中堀で艦船の修理をしている。

慶応年間に幕府は、横須賀に大規模な造船・修船の施設を計画・着工した。この施設は江戸幕府が崩壊した後も、明治新政府に引き継がれ、一号ドックが完成したのは明治4（1871）年のことであった。その後、横須賀造船所は規模を拡大していった。その間の浦賀は、といえは水兵の基礎教育機関である「浦賀水兵屯集所」（後に屯営：右下写真参照）が置かれ、800名もの新米水兵が浦賀で教育されていた。この時も中堀に船を入れ帆走の訓練をしていた。

この中堀に目をつけていた連中がいた。明治17（1884）年6月、渋沢栄一や三井財閥の中で総合商社の三井物産を立ち上げた益田孝ら13人が名を連ねて、浦賀屯営の場所を売って欲しいと政府に願い出た。

その理由は、「近年船舶の運航が活発になり、それも鉄製の大型船が増えてきて国内だけでも百艘を超えるという。鉄製の船は少なくとも年に一度は船底についた貝を落とさなければスピードが落ち、また腐食する。こうした状況なのに国内のドックは横須賀に三つ、長崎に一つしかない。各船はしかたなく上海や香港まで出かけてドックしている。これは船主が不便さを感じるだけでなく、国家経済を損なう元である。そこで私たちが発起人となって船渠会社を

立ち上げることにし、まず調査を試みたら浦賀に旧船渠があり、東京湾口という地勢も有利な場所であることから、現在海軍省の用地で、水兵の訓練所であるのですが、相当の代価を出しますので、是非とも払い下げてください」というものであった。この発起人のメンバーのすざは先の二人の他に浅野セメントの創業者で浦賀ドックを創業した時の大株主であった浅野総一郎、大成建設の創業者でサッポロビールやホテル・オークラ、東京経済大学など幅広い分野で活躍した大倉喜八郎、ちょっと変わった人物では渋沢栄一とともに東京製鋼や東京ガス、横浜船渠に関連し、また日本で最初にイソップ童話を翻訳した渡部温ら各界の名士が名を連ねている。

明治17年12月、明治政府は「申し出の件、よくわかりました。しかし、船渠会社を創業するのは大変費用がかかりますので、政府とともに考えましょう。その前に現状では水兵の屯営があり、この移転費用もばかになりません。この費用5万2千円ほど下されば、屯営は速やかに移転しますので、まずはそこから」という答えであった。



屯営跡碑

### イベント情報

## 2012 第31回レンガドック活用イベント 4/28 (第14回咸臨丸フェスティバルに参画)

### ①ワンデーミュージアム

時間：10:00～16:00

場所：(仮称)ミュージアム・パーク推進センター

- 内容：1. 咸臨丸太平洋横断基礎展示  
2. 木古内町咸臨丸終焉140年事業内容の展示（木古内町観光協会協力）  
3. 咸臨丸関連ミニ講演会 13:00～  
・木古内町観光協会 多田賢淳さん  
・歴史小説家 植松三十里さん（サイン会あり）  
・咸臨丸子孫の会 小杉伸一さん  
4. 咸臨丸乗組員の子孫と語らう場  
5. 工具の展示

### ②産業遺産紹介ツアー

時間：第1回 14:00～14:45

第2回 15:00～15:45

場所：レンガドック周辺  
内容：ガイド付きドックツアー

### ③産業遺産でコンサート

時間：14:00～16:00（開場 13:30）

場所：機関工場内  
内容：三浦学苑高校吹奏楽部、浦賀中学校吹奏楽部によるコンサート  
客席：当日先着200席（立ち見も可）

入場自由



### 発刊にあたり

レンガドックかわら版は、浦賀地域の人にドックや浦賀について知っていただくことを目的とした不定期刊行物です。レンガドック活用イベント実行委員会が浦賀ドックで年4回実施しているイベント情報を中心に掲載します。



## レンガドック活用イベントを実施しています

### ■レンガドックや機関工場などの産業遺産を実験的に活用するイベント

平成15年3月、住友重機械工業（株）浦賀工場が閉鎖しました。平成15～16年に、工場跡地の土地利用方針について「浦賀港周辺地区再整備計画」などが策定され、特に歴史的産業遺産が集積しているエリア（右図エリアの一部）を（仮称）ミュージアム・パークとし、産業遺産を保全活用しつつ公園的空間の整備を進めることが位置付けられています。

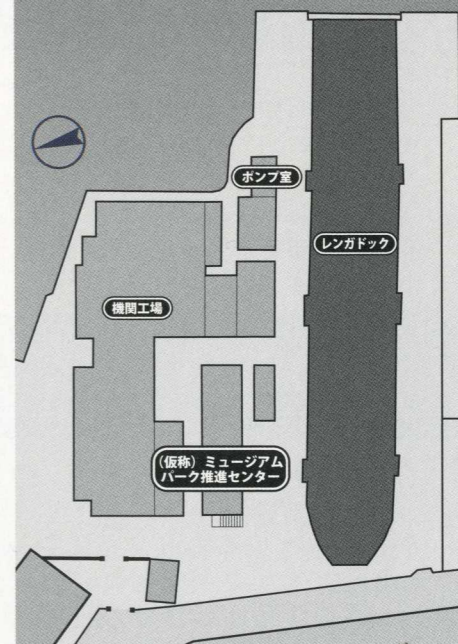
それらを実現するために、  
①産業遺産の保全活用の具体的な手法を探求すること  
②市民・企業・行政の協働で実施し、将来の（仮称）ミュージアム・パークの運営の一部を担う組織へ発展することを目的として、レンガドック活用イベントを実施してきました。平成24年度も開催します。（4面にイベント情報掲載）

### ■浦賀ドックには

歴史的価値の高いレンガドックをはじめ、歴史的産業遺産が集積しています。

### ■レンガドック

レンガ造のドックは日本に2基しか存在しません。もう1つのレンガドック・川間ドックは現在ゲート（扉船）が開放されて、海と一体になっているため、ドライドックとしての形を残すものは、このドックが日本で唯一となります。



鉄の工作体験イベント



産業遺産紹介ツアー



咸臨丸フェスティバルに参画したコンサート



夏休み子供体験イベント「船と海を科学しよう」



# レンガドック アンケートを 実施しました

平成16年度から始めたレンガドック活用イベントのこれまでの活動を振り返り、今後の活動に生かすため、産業遺産活用に対する意識調査を実施しました。浦賀行政センター管内にお住まいの15歳～79歳の方、1,000人（無作為抽出）を対象に、アンケート用紙をお送りし、322人から回答をいただき、回収率は32.2パーセントとなりました。



## 《結果概要》

### (1) イベントの認知度

イベントに行ったことがあるのは4割弱、行ったことはないがイベントの存在を知っているのは4割強。逆に「まったく知らない」のは2割弱でした。

### (2) イベントの感想

イベントに行ったことがある人のうち、面白かったと感じているのは、約3分の2を占めました。

### (3) イベントは本来の開催目的に合っているか

5割超が目的に合っていると感じ、反対に、合っていないと感じているのは2割でした。

### (4) イベントの回数

イベントの回数は、「今までどおり年に3～4回」がもっとも多く4割強で、続いて、「回数を増やし

たほうがよい」とするのが4割弱となりました。反対に、回数を減らして「必要最小限にとどめるべき」が1割強となりました。

### (5) イベントの内容

内容は、「見直して充実させるべき」が5割超、「今までどおり」が3割強、「縮小・廃止」が1割弱でした。

### (6) 産業遺産の保存の効果と意味

「当時の生活や時代背景がうかがえる」や「造船産業の魅力を社会にアピールできる」などの肯定的意見が大半を占め、逆に、「効果が期待できない」とする否定的な意見はごく一部でした。

### (7) 地域への愛着

7割以上が現在の地域に愛着を持っているという結果になりました。

### (1) レンガドック活用イベントについて、どの程度知っていますか？

以前に数回行ったことがありよく知っている	一度行ったことがあり、だいたい知っている	行ったことはないが、町内会の回覧板、ポスター、広報紙等で見てよく知っている	人から聞いたりして少しは知っている	あまり知らないが、何かで見たり聞いたりして名前だけは知ってる	名前も聞いたことがなく、まったく知らない	その他不明
23%	16%	17%	4%	20%	18%	2%

### (2) イベントに行ってみた感想は？

面白かった	少し面白かった	どちらでもない	あまり面白くなかった	面白くなかった
31%	35%	13%	18%	3%

### (3) イベントは本来の目的にあっていますか？

合っている	だいたい合っている	分からない	あまり合っていない	合っていない
18%	36%	26%	16%	4%

## ドックのお話 01

### 昔、機関工場で働いていた方へインタビュー

レンガドック活用イベントの中心的な担い手の「ドックと浦賀の歴史を愛する会」の代表・浅倉藤夫さんにお話を伺いました。浅倉さんは、かつて浦賀工場で機関工場を統括する修理課長として働いていました。

——浦賀ドックで働こうと思っただききっかけは？

大きく動くものを造り、腕を磨いて生かせる仕事をしたいと、千葉から出てきました。今思う

のは、造船所で働く人は辞めてからも、つぶしが利くということです。それは仕事の幅が広く、始めから終わりまですべて自分の手で造るから。

——浦賀ドックの何を自慢したいですか？

内容の濃い船をたくさん造ってきたということですね。軍艦、防衛庁の船、護衛艦、海上保安庁の巡視船、港湾作業船。それからLASH船（大型船と陸を往復して貨



元修理課長の浅倉藤夫さん

物を運ぶ小舟を搭載し輸送する船)もあります。この船を造っていたのは国内で浦賀だけでした。

また、浦賀船渠時代、造船だけではなく鉄骨、鉄塔、橋梁などの製作工事も引き受けていました。国会議事堂や東京タワーといった

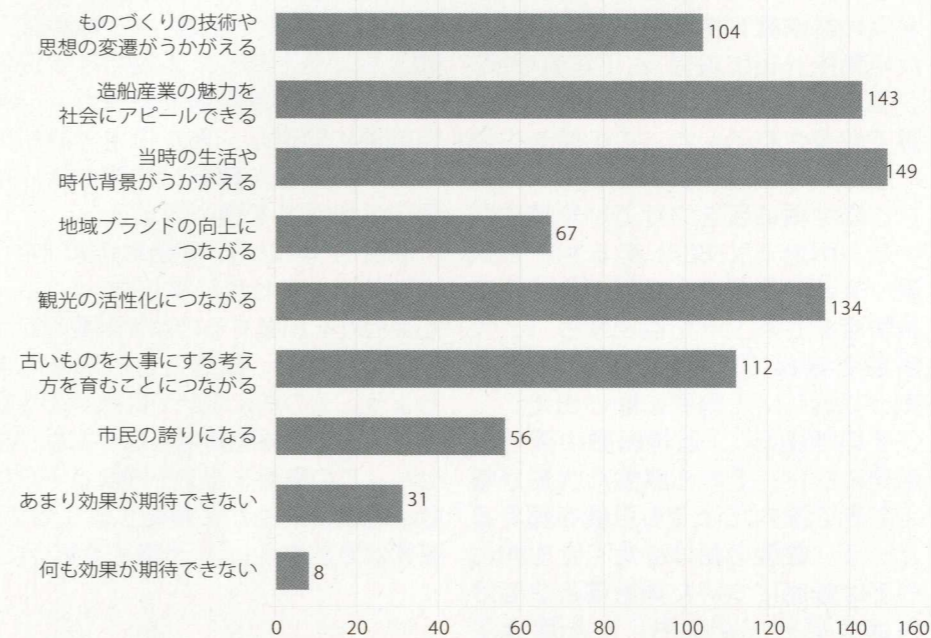
### (4) 土地利用が具体化するまでの間、イベント活動の回数について

できる限り多く開催すべき	もう少し多く開催すべき	今までどおり年間3～4回でよい	必要最小限にとどめるべき	イベントを開催する必要はない	不明
17%	21%	42%	12%	3%	5%

### (5) 土地利用が具体化するまでの間、イベント活動の内容について

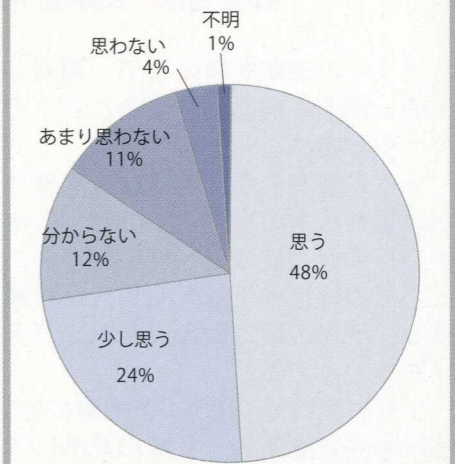
大幅に内容を見直して充実させるべき	少し内容を見直して充実させるべき	今までどおりの内容でイベントを続けたほうがよい	内容を見直して縮小すべき	不明
10%	45%	32%	4%	4%

### (6) 産業遺産の保存の効果や意味について、あなたの考えに近いものを選んでください。(複数回答)



### (7) 地域への愛着についても質問しました

5項目の質問から地域への愛着の尺度を作り、地域に対して愛着があると思うかを測定しました。



アンケート調査にご協力いただきました皆さんに感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

### 今回の結果から、次の傾向が伺えます

- ① イベントに来てくれた人の多くは面白かったと感じている
  - ② イベントは継続し、内容を見直して充実させたほうがよい
  - ③ 産業遺産の保存の効果や意味に価値を感じており、また住民の多くは地域への愛着を持っている
- 課題として、4割の人がイベントの存在は知っていても行ったことがないという結果から、イベント内容の見直しや充実を図る必要性が考えられます。

当時の日本を代表する建物の鉄骨も造っていました。

——浦賀湾では、たくさんの船が行き交って、ぶつかったりしなかったんですか？

事前に、漁業協同組合や作業船に連絡していたから大丈夫ですよ。

——産業遺産のどのようなところを伝えていきたいですか？

機関工場のリベット（鋼材などをつなぎ合わせるために打つ釘）です。これは今の建築ではあまりみられません。それから、東側の艀装（船体が完成し進水した後の

配管、内装などの工事の総称)用の500mmの岸壁です。これだけの長さのものは、ほかにあまりないのです。かつての大和、武蔵の全

長が270mだったことを考えても、どれだけ岸壁が長いかが分かります。あと、レンガドックはもちろん伝えていきたいですね。

### ■修理課長のある1日

7時05分	出勤。工場周辺を回ってタバコの吸い殻拾い。各部門の技師・係長とミーティング。その日の工程を確認。
7時55分	工場内に始業のベルが響き渡る。
8時00分	従業員と一緒に体操。班ごとのミーティング。作業開始。すべての船を点検。他部門との連絡会。事務作業。
12時00分	昼休み。出前のライスカレーを食べる。
13時00分	現場回り。ドックに船が入るため排水まで3時間の立ち会い。
17時00分	終業のベルが鳴る。残務整理をして1日の仕事終了。浦賀の町へ。